

| | |
|--|---|
| 研究課題名 | 早期の EPDS(エジンバラ産後うつ病質問票：Edinburgh Postnatal Depression Scale)による産褥うつに対する予測 |
| 研究の意義・目的 | <p>産後うつ病は自殺など周産期死亡の原因となるだけでなく、母子心中や乳児虐待、愛着障害など母児の関係にも大きな影響を与える。産後うつ病の評価として一般的に EPDS が用いられており、産後うつ病ハイリスクと診断された産褥婦は助産師・保健師による生活や育児のフォローアップや症状に応じて精神科へ紹介することが考慮される。しかし、助産院や精神科の併設されていない病院では精神科受診まで期間を要する事が多い。また産褥婦の精神科受診への抵抗感や授乳の影響で投薬治療が行えないなどの問題点がある。当科では、産褥 3 日目に EPDS を算出し、高値の患者に対し産褥 2 週間健診を薦めているが、早期の EPDS と産褥 1 か月の EPDS との関連性は明らかになっていない。</p> <p>そこで、産褥 3 日目の EPDS と産褥 1 か月健診時の EPDS との関連について明らかにすることを目的に診療録を用いて後方視的に検討することで、早期から産褥うつ発症患者の予測を行う。</p> |
| 研究を行う期間 | 機関の長の実施許可日 ~ 2025 年 12 月 |
| 研究協力を お願いしたい方 (対象者) | 2021 年 1 月~2021 年 12 月に大阪公立大学医学部附属病院の女性診療科で分娩となり、1 か月健診を受診された方が対象となります。 |
| 協力をお願いしたい 内容と研究に使わせ ていただく試料・情 報等の項目 | 診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。 患者基本情報：年齢、身長、体重 周産期事象：妊娠回数、妊娠方法、周産期合併症 周術期情報：分娩方法、分娩週数、出血量、EPDS(産後 3 日目、2 週間、1 か月) |
| 試料・情報を 利用する者の範囲 および管理について 責任を有する者の 研究機関の名称 | この研究は、公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院医学研究科女性生涯医学のみで行います。 【研究責任者】栗原 康 |
| 本研究の 利益相反 | 利益相反の状況については研究者等が利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。 本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。 |
| 研究に協力を したくない場合 | 診療情報が当該研究に用いられることについてご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも不利益を受けることはありません。 |
| 連絡先 | 大阪公立大学医学部附属病院 女性診療科 担当者氏名：栗原 康 電話番号：06-6645-3862 |